

2020年度課題別研修「エネルギーの高効率利用と省エネの推進(A)(B)」に係る参加意思確認公募について

独立行政法人国際協力機構九州センター（以下「JICA九州」という）は以下の業務について、別紙のとおり参加意思確認書の提出を公募します。

本業務は、省エネルギーに取り組もうとしている開発途上国から研修員として日本に招いた省エネルギー政策・推進を担う人材に対し、所定の案件目標を達成するべく、自国の実情を踏まえた省エネルギー普及推進に関する必要な知識や技術に関する研修を行うものです。

本業務の遂行にあたっては、公益財団法人北九州国際技術協力協会（以下「特定者」という）を契約の相手先として、JICA 所定の基準に基づき経費を積算した上で契約を締結する予定です。

特定者は、JICA九州所管地域において、省エネルギーに係る法整備、政策および技術分野に関して、学術分野、知識、技術、ノウハウの蓄積があります。また、途上国の省エネ技術・推進のための人材育成の実績も豊富であり、同講義や視察に関する人的ネットワークを有する機関です。本研修の目標達成のため効果的な研修プログラムを提供できることから、以下の「2 応募要件」を満たし、本件業務を適切に実施し得る要件を備えています。特定者以外の者で応募要件を満たし、本業務の実施を希望する者の有無を確認する目的で、参加意思確認書の提出を招請する公募を実施します。

1 業務内容

(1) 業務名：2020年度課題別研修

「エネルギーの高効率利用と省エネの推進 (A)」研修委託業務

「エネルギーの高効率利用と省エネの推進 (B)」研修委託業務

(2) 業務内容：別紙1「研修委託業務概要」のとおり。

(3) 研修コース実施期間（予定）：

(A) コース：2021年1月中旬から2021年3月上旬まで

(B) コース：2020年9月下旬から2020年11月上旬まで

(4) 履行期間（予定）：

(A) コース：2020年12月中旬から2021年3月下旬まで

(B) コース：2020年8月上旬から2020年12月上旬まで

2 応募要件

(1) 基本的要件：

- ① 公示日において、令和元・2・3年度全省庁統一資格の競争参加資格を有する者（以下「全省庁統一資格者」という）。

なお、全省庁統一資格者でない者で参加意思確認書の提出を希望する者は、必要な書類を提出することで、当機構における競争参加資格審査を受けることができます。

- ② 会社更正法（平成 14 年法律第 154 号）又は民事再生法（平成 11 年法律第 225 号）の適用の申し立てを行い、更生計画又は再生計画が発効していない者は、参加意思確認書を提出する資格がありません。
- ③ 当機構から「独立行政法人国際協力機構契約競争参加資格停止措置規程」（平成 20 年 10 月 1 日規程（調）第 42 号）に基づく契約競争参加資格停止措置を受けていない者。具体的には以下のとおり扱います。
 - ・ 資格停止期間中に提出された参加意思確認書は、無効とします。
 - ・ 資格停止期間中に公示され、参加意思確認書の提出締切日が資格停止期間終了後の案件については、参加意思確認書を受付けます。
- ④ 日本国で施行されている法令に基づき登記されている法人である者。
- ⑤ 競争から反社会的勢力を排除するため、参加意思確認書を提出しようとする者（以下、「提出者」という。）は、以下のいずれにも該当しないこと、および当該契約満了までの将来においても該当することはないことを誓約する者。具体的には、参加意思確認書の提出をもって、誓約したものとします。なお、当該誓約事項による誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、参加意思確認書を無効とします。

ア. 提出者の役員等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力団等（これらに準ずるもの又はその構成員を含む。平成16年10月25日付警察庁次長通達「組織犯罪対策要綱」に準じる。以下、「反社会的勢力」という）である。

イ. 役員等が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2号第6号に規定する暴力団員でなくなった日から5年を経過しないものである。

ウ. 反社会的勢力が提出者の経営に実質的に関与している。

エ. 提出者又は提出者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。

オ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。

カ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。

キ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。

ク. その他、提出者が東京都暴力団排除条例（平成 23 年東京都条例第 54 号）又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。

(2) その他の要件：

- ① 2020年度コースを第1回目として受託し、2022年度まで計3回、本コースを受託可能である者。2020年度コースを受託した者とは、業務実施状況に特段の問題がない限り、業務量、価格等を年度ごとに見直した上で2022年度コースまで随意契約を行う予定である（ただし、研修対象国の状況など予期しない外部条件の変化が生じた場合を除く）。
- ② 各年度に複数回コースを実施の場合でも受託可能である者。
- ③ 業務を統括するための統括責任者を選任し、当機構担当者と密接な連絡を保ちつつ、研修委託業務が円滑に進むような体制を構築できる者。
- ④ 研修コースを九州で実施することができる者。但し、一部日程をその他の地域で実施する事は差し支えない。

3 手続きのスケジュール

(1) 参加意思確認申請書の提出	提出期間	2020年1月28日(火)午前10時から同年2月12日(水)午後4時まで
	提出場所	JICA九州 研修業務課 〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野 2-2-1
	提出書類	・参加意思確認書(別紙2) ・同書 2 応募要件 に記載の各事項を証明する資料
	提出方法	持参又は郵送(書留としてください)
(2) 審査結果の通知	通知日	2020年2月14日(金)
	通知方法	(1)参加意思確認書の提出者：郵送 (2)特定者：JICA九州ウェブサイト「調達情報」「公告・公示情報」「研修委託契約」で公開。
(3) 応募要件無しの理由請求	請求場所	JICA九州 研修業務課
	請求方法	持参又は郵送(書留としてください)
	請求期限	2020年2月18日(火)
	回答予定日	2020年2月20日(木)
	回答方法	郵送

4 その他

- (1) 提出期限を過ぎて提出された参加意思確認書等は無効とします。
- (2) 参加意思確認書等の作成及び提出に係る費用は、提出者の負担とします。
- (3) 提出された参加意思確認書等は返却しません。
- (4) 機構は提出された参加意思確認書等を、参加意思確認書等の審査の目的以外に提出者に無断で使用しません。
- (5) 提出期限以降における参加意思確認書の差替え及び再提出は認めません。
- (6) 審査の結果、応募要件を満たさなかった者は、書面によりその理由について説明を求めることができます。(上記3(3)を参照ください。)
- (7) 公募の結果、応募要件を満たす者がいない場合は、特定者との随意契約手続きに移行します。また、応募要件を満たす者がいる場合は、指名競争入札(総合評価落札方式)または指名による企画競争を行います。その場合の日時、場所等

の詳細は、応募要件を満たす者及び特定者に対して、別途連絡します。

- (8) 予算その他機構の事情により、当該手続きを中止する場合があります。
- (9) 手続きにおいて使用する言語及び通貨：日本語及び日本国通貨に限る。
- (10) 契約保証金：免除
- (11) 共同企業体の結成：認めない
- (12) 当機構の契約競争関連規定は、当機構ウェブサイトの「調達情報」(URL：<http://www.jica.go.jp/announce/index.html>)にて公開中。
- (13) 情報の公開について：

本公示により、公募参加確認書を提出する者については、その法人・団体名を契約情報として当機構ウェブサイト上に公表しますので、予めご承知下さい。また、本公示により契約に至った契約相手方と契約に関する情報を当機構ウェブサイト上に公表しますので、必要な情報を当機構へ提供すること及び情報を公表することに同意の上で、参加意思確認書の提出及び契約の締結についてご理解をお願いいたします。

具体的には、参加意思確認書の提出をもって本件情報の公開について同意されたものとしします。

以 上

別紙 1：研修委託業務概要

別紙 2：参加意思確認書

別紙 3：誓約書

別紙 4：資格審査申請書

2020 年度課題別研修
「エネルギーの高効率利用と省エネの推進(A)(B)」研修委託業務概要

1. 当該研修コースの概要

(1) コース名

2020 年度課題別研修

「エネルギーの高効率利用と省エネの推進(A)」

「エネルギーの高効率利用と省エネの推進(B)」

(2) 研修の目的と背景

パリ協定により、先進国のみならず成長が著しい開発途上国においても、社会経済の大幅な低炭素化が大きな開発アジェンダとなっている。国際エネルギー機関（IEA）による向こう約 20 年間のエネルギー見通しが示すとおり、今後世界における温室効果ガス排出量増加分の大部分は開発途上国から排出される見込みである。

経済発展に伴いエネルギー消費量が増大するこれらの国・地域において、成長を妨げることなく、低炭素化～長期的には脱炭素化～に向けた世界的な要求に対処していくため、再生可能エネルギーの導入と併せて、エネルギー利用効率の向上をこれまで以上に強力に推進していくことが求められている。

本研修は、(A)(B)(C)の3コースに分類されるが、2020年度から3年度にわたり、継続実施することとなったため、研修効果の向上を目的として、2020年度以降の本研修の実施方針が整理され、①研修参加者の属性（エンジニア⇄非エンジニア）②参加国のエネルギー消費セクター（産業・運輸・民生）の2点掛け合わせの観点から分類が行われた。さらに、研修員がどのコースに分類されても一定の内容を習得できるよう、全コースの共通部分（コアカリキュラム）を研修内容の3分の2占めるように留意し、残りの部分はセクター別のテーマに特化し、実施することとした。

案件要旨

(A)コースは産業部門、(B)コースは民生部門での省エネルギー特化されるものであり、(A)(B)(C)全コースに共通するコアカリキュラムに加えて、省エネルギー技術や設備面、さらにエネルギー管理面、制御技術および運用面より、(A)コースは産業部門、(B)コースは民生部門にて注力すべき具体的対策と事例について知見を得る。尚、(C)コースの運輸部門は JICA 中部所管である。

(3) 研修の目標

1. (A)コースでは産業分野、(B)コースでは民生分野でのエネルギー事情や政策等を把握し、自国の課題を説明できる。
2. わが国の省エネルギー政策、規制、省エネルギー方法およびエネルギー効率化推進を理解する。
3. (A)コースでは、産業分野の省エネルギー優良事例を通して、エネルギー効率、有効性および利益にかかる具体的な方法を理解し、自国の現状と比較することで対策の違いや適用性を理解する。
(B)コースでは、民生分野の省エネルギー優良事例を通して、エネルギー効率、有

効性および利益にかかる具体的な方法を理解し、自国の現状と比較することで対策の違いや適用性を理解する。

(4) 研修内容

1) 研修項目

本コースのカリキュラム構成は、概ね以下の項目からなる。応募書類提出時に提出されるジョブレポートにおいて抽出された課題・問題点を念頭に置き、講義で学んだことについて自身で考え、現場視察等で実例を持って確認し、討論等で理論を体得することを基本プロセスとする。その結果、課題解決のためのアクションプランを作成することを目指す。

1. 省エネの目標（パリ協定順守、SDGs、インテンシティ改善、エネルギーの種類）
2. 世界のエネルギー動向（パリ協定、モントリオール議定書、省エネに関する国際標準、エネ消費トレンド、IEA）
3. エネルギーデータマネジメント
4. 振り返り（課題認識、アクションプログラムイメージを持つ）
5. 省エネルギー推進施策（インテンシティ概念、産業、ビル・住宅）
6. 省エネルギーセンター講習
日本のエネルギー政策の全体像、運輸、ZEB、EMS、ESCO、面的アプローチ、普及啓発、財源、エネルギー統計、地方自治体の省エネ、温室ガス戦略
7. 省エネルギー技術や設備（技術全体論、ヒートンプ、最近のトピックス）
8. (A) コース：産業部門主要技術（照明、インバータ、モーター、ポンプ、蒸気、排熱、CDT 導入、等）
(B) コース：民生部門主要技術（照明、インバータ、ビル診断、省エネチューニング、等）

2) 研修方法

プログラムは英語で実施する。通訳が必要な場合は、JICA が別途コースに配置する研修監理員(日本語／英語)がこれを行う。

(ア) 講義

テキスト・レジュメ等を準備し、必要に応じて視聴覚教材を利用して、研修員の理解を高めるよう工夫し、共創（Knowledge Co-creation）を具現化するための仕掛けを取り入れる。

(イ) 演習・実験／実習

講義との関連性を重視し、テキストを参照しながら講義で学んだ内容の確認と応用力を養えるように工夫し、帰国後の実務により役立つことを目指す。

(ウ) 見学・研修旅行

講義で得られた知見をもとに関係者との意見交換を通じて、事業実施において実践可能な知識・技術を習得できるように努める。研究機関だけでなく民間会社等への訪問も含め、より適応範囲の広い技術が習得できるよう工夫する。

(エ) レポート作成・発表

各レポートの作成・発表にあたっては、各研修員の問題意識について研修員・日本側関係者間で相互理解を深めるよう配慮し、あわせて帰国後の問題解決能力を

高めるよう努める。

3) 研修付帯プログラム (JICA が実施するプログラム)

(ア) 集合ブリーフィング

来日時事務手続き、滞在諸手当の支給手続き等についての説明を通常来日の翌日に、実施する。

(イ) 一般オリエンテーション

技術研修に先立って、日本滞在中の必要知識として、我が国の歴史、社会制度等についてオリエンテーションを行う。

(ウ) 日本語研修

技術研修に先だって、日本語で簡単な買い物や挨拶ができるよう実施する。

(5) 研修員

1) 定員：10名

2) 研修対象国：全世界

3) 対象組織：

(A) コース：産業分野での省エネのポテンシャルやインセンティブが見込まれる国

(B) コース：民生分野での省エネのポテンシャルやインセンティブが見込まれる国

(6) 研修期間

(A) コース：2021年1月中旬から2021年3月上旬まで

(B) コース：2020年9月下旬から2020年11月上旬まで

なお、事前準備・事後整理期間として、技術研修期間の前に約1ヶ月、同期間の後に約2ヶ月を加える。

2. 業務の範囲及び内容

(1) 研修実施全般に関する事項

- 1) 日程・研修カリキュラムの作成・調整
- 2) 研修実施に必要な経費の見積もり及び経費処理
- 3) 研修実施要領の確認 (評価項目・評価基準の策定)
- 4) 教材・テキストの印刷製本
- 5) コース評価要領の作成
- 6) 研修員選考会への出席
- 7) JICA その他関係機関との連絡・調整
- 8) 研修監理員との調整・確認
- 9) コースオリエンテーションの実施
- 10) 研修の運営管理とモニタリング
- 11) 研修員の技術レベルの把握 (個別面接の実施等)
- 12) 各種発表会の実施
- 13) 研修員作成の各種レポートの分析・評価
- 14) 研修員からの技術的質問への回答
- 15) 評価会への出席、実施補佐
- 16) 開・閉講式への出席、実施補佐
- 17) 反省会への出席

18) 講義、見学の評価

(2) 講義（演習・実習）の実施に関する事項

- 1) 講師の選定・確保
- 2) 講師への講義依頼文書の発出
- 3) 講義室及び使用資機材の確認
- 4) 講義テキスト、資機材、参考資料の準備・確認
- 5) 講義等実施時の講師への対応
- 6) 講師謝金の支払い
- 7) 講師への旅費及び交通費の支払い
- 8) 講師（乃至所属先）への礼状の作成・送付
- 9) 著作権利用許諾の範囲についての教材ごとの確認

(3) 見学（研修旅行）の実施に関する事項

- 1) 見学先の選定・確保と見学依頼文書乃至同行依頼文書の作成・送付
- 2) 見学先への引率
- 3) 見学謝金等の支払い
- 4) 見学先への礼状の作成と送付

(4) 留意事項

JICA は研修実施に関し、必要に応じ英語の研修監理員を1名配置する。研修監理員は講義及び演習・実習、並びに見学・研修旅行時の通訳を兼務する。教材・テキストの翻訳・印刷製本、並びに研修員及び同行者の研修旅行の手配についても JICA を通じて行う。

3. 本業務に係る報告書の提出

本業務の報告書として、業務完了報告書、経費精算報告書を各1部ずつ、業務完了後速やかに提出する。

4. その他

- (1) JICA は、研修実施の運営にかかる事務手続き関連業務を、別途団体等に委託して実施予定である。研修実施にあたっては、受注者は必要に応じ団体等との調整を行うものとする。
- (2) 本業務概要は予定段階のものでありますので、詳細については変更される可能性があります。

参加意思確認書

独立行政法人国際協力機構
九州センター契約担当役
所長 植村 吏香 殿

提出者 (所在地)
(貴社名)
(法人番号)
(代表者役職氏名)
(担当者所属役職氏名)
TEL
FAX
メールアドレス

「2020 年度課題別研修「エネルギーの高効率利用と省エネの推進 (A) (B)」に係る参加意思確認公募について」に係る応募要件を満たしており、業務への参加を希望しますので参加意思確認書を提出します。

記

1 組織概要

2 応募要件

(1) 基本的要件：

令和元・2・3 年度年度全省庁統一資格を有する場合、同資格審査結果通知書(写)を添付してください。

同資格審査結果通知を有していない場合は次の書類を添付してください。

➤ 資格審査申請書 (別紙 4)

(http://www.jica.go.jp/announce/screening/ku57pq00000s45w1-att/ind_examine.pdf)

- 登記事項証明書 (写) (法務局発行の「履行事項全部証明書」、発行日から3ヶ月以内のもの)
- 財務諸表 (直近1ヵ年分、法人名及び決算期間が記載されていること)
- 納税証明書 (その3の3、発行日から3ヶ月以内のもの) (写)

(2) その他の要件：

① 誓約書の提出 (別紙 3)

② 特定の資格、認証等が指定されている場合には、当該資格、認証等の取得状況が分かる証明書を提出してください。

※ その他組織概要等のわかるパンフレット等を添付してください。

以上

提出日： 年 月 日

誓約書

独立行政法人 国際協力機構
九州センター
契約担当役 所長
植村 吏香 殿

2020年度課題別研修「エネルギーの高効率利用と省エネの推進(A)(B)」の参加意思の確認を受けるに際し、以下に記載の事項について誓約します。

なお、当該記載事項に係る誓約に虚偽があった場合又は誓約に反する事態が生じた場合は、参加意思確認が無効となることに同意します。

住	所	
法	人	名
法	人	番 号
役	職	名
代 表 者	氏 名	役職印

1 反社会的勢力の排除

参加意思確認公募から反社会的勢力を排除するため、以下のいずれにも該当しないこと。

- ア. 提出者の役員等（提出者が個人である場合にはその者を、提出者が法人である場合にはその役員をいう。以下同じ。）が、暴力団、暴力団員、暴力団関係企業、総会屋、社会運動等標榜ゴロ、特殊知能暴力団等（これらに準ずるもの又はその構成員を含む。平成16年10月25日付警察庁次長通達「組織犯罪対策要綱」に準じる。以下、「反社会的勢力」という。）である。
- イ. 役員等が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第6号に規定する暴力団員でなくなった日から5年を経過しないものである。
- ウ. 反社会的勢力が提出者の経営に実質的に関与している。
- エ. 提出者又は提出者の役員等が自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、反社会的勢力を利用するなどしている。
- オ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的若しくは積極的に反社会的勢力の維持、運営に協力し、若しくは関与している。
- カ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力であることを知りながらこれを不当に利用するなどしている。
- キ. 提出者又は提出者の役員等が、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有している。
- ク. その他、提出者が東京都暴力団排除条例（平成23年東京都条例第54号）又はこれに相当する他の地方公共団体の条例に定める禁止行為を行っている。

2 個人情報及び特定個人情報等の保護

社として「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」及び「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン（事業者編）（平成26年12月11日特定個人情報保護委員会）」に基づき、個人情報及び特定個人情報等（※1）を適切に管理でき

る体制を以下のとおり整えていること。

(中小規模事業者(※2)については、「特定個人情報の適正な取扱いに関するガイドライン(事業者編)」別添「特定個人情報に関する安全管理措置」に規定する特例的な対応方法に従った配慮がなされていること。)

- ア. 個人情報及び特定個人情報等の適正な取扱いや安全管理措置に関する基本方針や規程類を整備している。
- イ. 個人情報及び特定個人情報等の保護に関する管理責任者や個人番号関係事務取扱担当者等、個人情報及び特定個人情報等の保護のための組織体制を整備している。
- ウ. 個人情報及び特定個人情報等の漏えい、滅失、き損の防止その他の個人情報及び特定個人情報等の適切な管理のために必要な安全管理措置を実施している。
- エ. 個人情報又は特定個人情報等の漏えい等の事案の発生又は兆候を把握した場合に、適切かつ迅速に対応するための体制を整備している。

(※1) 特定個人情報等とは個人番号(マイナンバー)及び個人番号をその内容に含む個人情報という。

(※2) 「中小規模事業者」とは、事業者のうち従業員の数が100人以下の事業者であって、次に掲げる事業者を除く事業者をいう。

- ・ 個人番号利用事務実施者
- ・ 委託に基づいて個人番号関係事務又は個人番号利用事務を業務として行う事業者
- ・ 金融分野(金融庁作成の「金融分野における個人情報保護に関するガイドライン」第1条第1項に定義される金融分野)の事業者
- ・ 個人情報取扱事業者

以 上

資格審査申請書

申請日:

独立行政法人国際協力機構
九州センター
契約担当役 所長 殿

以下の業務への参加における資格審査を申請します。なお、この申請書の全ての記載事項及び添付書類については、事実と相違ない事を誓約します。

業務名	2020年度課題別研修「エネルギーの高効率利用と省エネの推進(A)(B)」
-----	---------------------------------------

1. 申請者

ふりがな		
法人名 (登記されている商号)		
	日本国で施行されている法令に基づき登記されている法人である	該当する・該当しない
本社所在地 (登記されている本社住所) TEL・FAX		
代表者	役職名	
	ふりがな	
	氏名	

2. 担当者連絡先(審査結果通知の窓口になっていただく方)

担当者	部署名	
	役職名	
	ふりがな	
	氏名	
	Email	
	住所 TEL・FAX	(本社所在地と同一の場合は記入不要)

3. 添付書類(添付した書類に○。)

1. 登記事項証明書(写)	発行日から3ヶ月以内のもの	
2. 財務諸表	直近1か年分、法人名、決算期間が記載されていること	
3. 納税証明書(その3の3)(写)	発行日から3ヶ月以内のもの	

4. 経営状況

※下記金額の千円未満は四捨五入とする。

①営業実績(単位:千円) 決算期間および損益計算書の売上高を直前2か年分記入

直前決算年度 年 月 日 ~ 年 月 日	直前々決算年度 年 月 日 ~ 年 月 日	平均実績額 (A+B) / 2
A	B	①

②自己資本額(単位:千円) 直前決算時の貸借対照表の金額を記入

	直前決算時	剰余(欠損)金処分類
資本金		
準備金・積立金	*注1	
次期繰越利益(欠損)金		*注2
小 計	A	B
純資産合計 A+B	②*注3	

*注1: (貸借対照表の純資産の部) - (資本金) - (繰越利益剰余金) = (準備金、積立金、資本剰余金、自己株式、評価・換算差額、新株予約権等の合計)

*注2: 繰越利益剰余金(欠損はマイナス表示とする)

*注3: 貸借対照表の純資産合計と一致

③流動比率 直前決算時の貸借対照表の金額を記入

流動資産(千円)	A		流動比率	③
流動負債(千円)	B		$A/B \times 100(\%)$	

④営業年数 登記事項証明書の会社成立の年月日からの満年数を記入

営業年数	④	年
------	---	---

本申請書に記載された情報は、氏名を除き情報公開の対象となります。また、当機構において、個人情報に関する部分は、入札競争・プロポーザル選考・見積徴収等の実施に際し、企業選定と資格確認のためにのみ利用されます。

以上